

領域	統合分野 在宅看護論	対象学年	2年	開講時期	前期
科目	在宅看護方法論 I	単位 (時間)	2 単位 (60 時間)		
講師名 所属	吉井 朋代 訪問看護ステーションゆうあい 看護師 田島 吉雅 長崎川棚医療センター 看護師 植松 弥生 長崎川棚医療センター 看護師 糸山 尚美 嬉野医療センター MSW 木口 綾子 訪問看護ステーションさくらそう 看護師 川下 洋美 嬉野医療センター 地域連携室看護師長 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師 10 年 剣持 葉子 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師 14 年 池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師 18 年				
科目目標： 1. 対象が在宅で療養する意味を理解し、日常生活を中心とした在宅看護援助の基本について理解できる 2. 在宅における日常生活援助の方法が理解できる 3. 医療管理が必要な在宅療養者やその家族への援助について理解できる 4. 在宅看護を必要とする人として、重症心身障害児（者）と神経難病患者・筋ジストロフィー患者の理解と援助の方法が理解できる 5. 在宅療養を支える制度を知り、また訪問看護ステーションのしくみや他職種との連携、さらに退院支援について理解できる					
授業概要： 在宅看護に必要な援助を行うための知識および技術の習得として、在宅看護の日常生活援助、医療管理を必要とする人の看護や在宅療養者を支える機関や職種およびそれら連携を理解するための関係職種と社会資源について学ぶ。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1	1. 在宅看護技術の基本	講義	岩谷 望美		
2～4	2. 在宅看護における安全性の確保	講義	岩谷 望美		
5～8	3. 在宅で求められる看護技術の応用 1) 食生活・摂食嚥下に関する在宅看護技 2) 排泄に関する在宅看護技術 3) 移動・移乗に関する在宅看護技術 4) 清潔に関する在宅看護技術 5) 服薬に関する在宅看護技術 6) 家庭にある用具を使用した在宅看護技術（演習）	講義・演習	池ヶ谷 知美		

授業計画

回数	講義内容	講義形式	担当講師
9～15	4. 医療管理を必要とする人の看護 医療管理と看護の実際（褥瘡管理、尿道留置カテーテル法、ストーマ管理、胃瘻・経管栄養法、在宅中心静脈栄養法（HPN）、非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）、在宅酸素療法（HOT）、在宅人工呼吸療法（HMV）、疼痛管理）	講義	吉井 朋代
16～17	5. 重症心身障害児（者） 1) 重症心身障害児（者）の特徴 2) 重症心身障害児（者）の看護の実際 3) 在宅療養に向けての支援	講義	剣持 葉子
18～19	6. 神経難病患者 1) 神経難病患者の特徴 2) 看護の実際 3) 在宅療養に向けての支援	講義	田島 吉雅
20	7. 筋ジストロフィー患者 1) 筋ジストロフィー患者の特徴 2) 看護の実際	講義	植松 弥生
21～26	8. 在宅看護を支える制度 1) 社会資源の活用 2) 医療保険制度 3) 高齢者・障害者・難病・子どもの療養生活を支える制度	講義	糸山 尚美
27～28	9. 訪問看護制度と訪問看護ステーションのしくみ 10. 多職種との連携 1) 在宅における連携の特徴	講義	木口 綾子
29～30	10. 多職種との連携 2) 療養の場の移行に伴う看護と連携 3) 退院支援・退院調整 4) 地域連携	講義	川下 洋美
	試 験		

テキスト

1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
2. ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

参考文献：必要に応じて授業中に紹介する

評価方法：筆記試験（別紙評価計画参照）

領域	統合分野 在宅看護論	対象学年	2年	開講時期	後期
科目	在宅看護方法論Ⅱ	単位(時間)	1単位(30時間)		
講師名 所属	井上 高博 神戸市立大学 山口 善子 活水女子大学 看護学部 講師 木口 綾子 訪問看護ステーションさくらそう 看護師 霜村 健 肥前精神医療センター 看護師 岩谷 望美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験：看護師10年				
科目目標：					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅療養者の状態別の看護を理解し在宅看護の実際について理解できる 2. 在宅看護における看護過程の特徴と一連の流れを理解できる 3. 実際の訪問を想定して訪問時の準備やマナー、バイタルサイン測定や日常生活援助の実際を演習し身につけることができる 4. 在宅看護を取り巻く社会や対象者の状況、また、看護の特徴から在宅看護の課題と展望について自分の意見を述べることができる 					
授業概要：					
実際の在宅療養者をイメージしながら症状・状態による看護を学び、在宅看護における看護過程の一連の流れやその特徴、在宅看護の展望や課題について学ぶ。					
授業計画					
回数	講義内容	講義形式	担当講師		
1～3	1. 在宅看護の展開 1) 在宅における看護過程の特徴 2) 初回から看護計画立案までの過程(演習) 3) 訪問看護で使用する記録	講義・演習 (遠隔)	岩谷 望美		
4～5	2. 在宅療養者の症状・状態別の看護 1) 脳血管疾患療養者	講義(遠隔)	井上 高博		
6	2) 認知症療養者	講義(遠隔)	山口 善子		
7	3) 終末期療養者	講義(遠隔)			
8	4) 子どもの療養者	講義(遠隔)	木口 綾子		
9	5) 難病の療養者	講義(遠隔)			
10	6) 精神障害者	講義(遠隔)	霜村 健		
11～13	3. 在宅看護場面の技術(演習)	講義・演習 (遠隔)	岩谷 望美		
14～15	4. 在宅看護の展望と課題	講義(遠隔) 演習 (分散演習)			
	試験				

テキスト

1. 系統看護学講座 統合分野 在宅看護論 医学書院
2. ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版

参考文献

1. ICF の理解と活用 萌文社
2. 関連図で理解する在宅看護過程 メヂカルフレンド社

評価方法

筆記試験、レポート（別紙評価計画参照）

領域	統合分野 在宅看護論	対象学年	3年	開講時期	前期 後期
科目	在宅看護論実習	単位（時間）	2単位（90時間）		
講師名 所属	池ヶ谷 知美 嬉野医療センター附属看護学校 専任教員 実務経験:看護師 18年				
<p>実習目的・目標：</p> <p>在宅看護は、自宅だけでなく、あらゆる環境で療養生活をしている新生児から高齢者までの全てのライフサイクルにある人が対象である。生活の質を高めるために、保健・医療・福祉のあらゆる面から、本人およびその家族に対して看護を提供することから、統合分野に位置づけられている。</p> <p>在宅看護論実習では、地域における在宅ケアシステム、継続看護の実際を理解し、地域で生活する対象の状況に応じた適切な看護が実践できる能力を養うことを目的とする。近年の医療制度改革において、病院から在宅への円滑な移行と医療の継続を重視することが掲げられていることも踏まえ、医療施設から在宅に向けての看護、健康障害をもつ在宅療養者の看護、在宅療養者の健康の保持増進と疾病予防に関わる支援の実際について学ぶ。在宅看護においては、療養者が生活する場に看護を提供する側が外向くことから、主体は療養者であることを認識し、相手を尊重した態度についても学ぶ。</p>					
<p>授業の概要</p> <p>医療施設から在宅療養に向けての看護では、重症心身障害児（者）の看護および神経難病患者的看護を通して、医療施設から在宅療養に向けての支援が必要な対象を理解し、在宅療養へ移行するための課題や継続看護の必要性を学ぶ。また、対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、対象に応じた日常生活援助の実際を学ぶとともに、社会資源の活用も含め施設から在宅療養に向けての課題（生命維持の難しさや日常生活上での困難さなど）について考え学ぶ。</p> <p>健康障害をもつ在宅療養者の看護では、訪問看護を通して学ぶ。訪問看護の特徴として看護の提供の場は療養者が生活しているところであり、看護の対象は在宅で生活しながら療養する個人とその家族である。各々の家庭に入り援助するためには、看護者と療養者およびその家族との関係性が重要であり、療養者および家族の意思や価値観を大切にし、ニーズに応えられる看護の提供が求められる。対象を理解し、対象に応じた日常生活援助の実際を学ぶとともに、社会資源の活用も含め施設から在宅療養に向けての課題（生命維持の難しさや日常生活上での困難さなど）について考え学ぶ。</p> <p>在宅療養者の健康の保持増進と疾病予防に関わる支援では、保健福祉事務所および居宅介護支援事業所において在宅療養者の健康の保持増進と疾病予防に関わる看護を学ぶ。</p> <p>保健福祉事務所では、保健所の役割と機能にある地域住民の健康の保持増進、疾病予防・環境衛生等公衆衛生活動の実際を学ぶ。また、保健・医療・福祉・環境に関するサービスが保健所の側面から関連機関とどのように連携しているかを学び、看護者の役割を考える。</p> <p>居宅介護支援事務所では、医療施設から在宅療養に向けての支援が必要な対象を理解し、在宅療養へ移行するための課題や継続看護の必要性を学ぶ。また、介護支援専門員と訪問面接に同行し、利用者および家族のニーズを理解し、ケアマネジメントのプロセスと社会資源の活用の実践について理解を深める。</p>					

授業計画

1. 実習目標および実習内容

実習目標	実習内容
1) 在宅看護の対象が理解できる。	(1) 重症心身障害児（者）の障害の程度、実年齢と発達年齢の違い (2) 神経難病をもつ対象の特徴 (3) 在宅で療養する対象の身体的・精神的・社会的状況 (4) 在宅で療養する対象の生活状況 (5) 対象及び家族のニーズとそれに応じた看護の必要性
2) 地域における医療・保健・福祉・看護活動の実際を知り、地域で生活する人々の健康がどのように守られているか理解できる。	(1) 重症心身障害児（者）、神経難病をもつ対象に応じた日常生活の援助の実際 ①対象に応じたコミュニケーションの方法 ②対象に応じた日常生活援助 ③事故防止、感染予防 (2) 療養生活の場、在宅看護の場の違い (3) 在宅での日常生活援助、医療処置や看護、医療機器管理を必要とする対象への援助や指導の実際 (4) 家族の介護状況を考慮した指導や支援
3) 保健医療福祉機関の連携と看護の継続性について理解できる。	(1) 多職種との連携 (2) 多職種との連携における看護師の役割 (3) 医療施設から在宅療養に向けての課題 (4) 対象をとりまく諸制度と社会資源の活用 (5) 居宅介護支援事業所の機能と支援の一連の流れ (6) 保健福祉事務所の役割 (7) 保健福祉事務所の活動内容
4) 看護の対象や家族及び医療スタッフと良い人間関係を築き、相手を尊重した態度を身につける。	(1) 看護者として、実習生としての自分の立場を考えた行動や対応

詳細は実習要項参照

2. 実習施設

1) 医療施設から在宅療養に向けての看護

- (1) 独立行政法人国立病院機構 東佐賀病院
- (2) 独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター
- (3) 独立行政法人国立病院機構 嬉野医療センター 地域医療連携室

2)健康障害をもつ在宅療養者の看護

- (1) 特定医療法人祐愛会 訪問看護ステーションゆうあい
- (2) 独立行政法人国立病院機構 長崎川棚医療センター
訪問看護ステーションさくらそう
- (3) 訪問看護ステーション ease

3) 在宅療養者の健康の保持増進と疾病予防に関わる支援

- (1) 杵藤保健福祉事務所（保健所）
- (2) 居宅介護支援事業所うれしの

履修条件

専門分野の単位認定ができていない学科目がある場合、関係する実習の履修ができないことがある。

参考文献

1. 国民衛生の動向
2. 国民の福祉と介護の動向
3. 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院
4. ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア メディカ出版
5. 厚生労働省ホームページ 在宅医療の推進について
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000061944.html>
6. 村上靖彦：在宅無限大 訪問看護師がみた生と死 医学書院

評価方法

実習出席状況、実習内容、評価基準に基づき評価する。(実習要項・実習要領・評価基準参照)